ヤマシギ

Scolopax rusticola Linnaeus
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧　旧：県域準絶滅危惧　【環境省カテゴリー】―

選定理由

目撃例は著しく少ないが、単独で夜間に行動し、日中は薄暗い林内で休息しているため、実際の生息数はもっと多いと推察される。一方、狩猟鳥である本種の捕獲数は、1970 年代に 8 万羽を記録したが、2005 ～ 2009 年には 1,000 ～ 2,000 羽に急減している。

種の特徴

全長 34 ㎝の太ったシギ類である。頭頂～後頭に黒い横斑があり、体の上面は赤褐色・黒色・灰白色の複雑な斑紋がある。嘴は肉色で太くて長い。夜間には開けた所にも出て、農耕地、湿地、草原等で、ミミズや地上徘徊性の節足動物、イネ科やタデ科の種子を食べる。

分　布

本州中部以北～北海道で繁殖し、北海道では夏鳥、本州中部以南では漂鳥もしくは留鳥である。本県では、秋季～冬季の記録が多いが、繁殖期の記録もある。

生息を脅かす要因

狩猟個体数の急激な減少から、本種の生息数は急激に減少している可能性が高いが、本県での生息状況が把握されていないことが一番の課題である。本種が好みそうな環境をセンサーカメラ等で定期的に調査し、生息状況を把握することが急務である。

参考文献　福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、小田谷（2014）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○					○	○

アオシギ

Gallinago solitaria Hodgson
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧　旧：―　【環境省カテゴリー】―

選定理由

山間の湿田・湿地や河川等、放棄が進む限られた環境で冬鳥として飛来するが、2010 年以降は 2 件しか記録がなく、減少傾向がみられる。

種の特徴

全長 30 ㎝で、嘴は長くまっすぐ伸び、全体の模様はジシギ類特有の模様をしているが、顔や体下面の部分はうっすらと青灰色みを帯びている。単独でいることがほとんどで、長い嘴を柔らかい砂泥に差し込んで、ミミズや昆虫等を採餌する。

分　布

冬鳥として全国に飛来するが、本州中部以南では少ない。本県では、敦賀以北の低山～山地帯の放棄された湿田や湿地、沢沿いでみられる。

生息を脅かす要因

山間の湿田・湿地や河川等の限られた環境に生息するため、管理放棄に伴う湿田や湿地の藪化等の環境変化が進み、2010 年以降は減少傾向が著しい。山間部の湿田や湿地の植生管理等の対策が必要である。

参考文献　福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○					○		○	○

オグロシギ

Limosa limosa (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧　旧：―　【環境省カテゴリー】―

選定理由

旅鳥として春と秋に記録されるが、2010 年以降は減少傾向が認められる。

種の特徴

全長 38.5 ㎝。嘴はまっすぐで長く、足も長い大形のシギである。飛翔時は白い翼帯と上尾筒の白色部と尾羽の黒帯が目立つ。ほかのシギよりも深いところに入り、昆虫類、甲殻類、二枚貝、ミミズ、ゴカイ等を食べる。

分　布

旅鳥として、河口、干潟、海岸付近の水田に飛来する。本県では、4 月下旬～ 5 月中旬、8 月下旬～ 9 月中旬に、九頭竜川下流域の水田に現れるが、越前市や敦賀市でも記録がある。

生息を脅かす要因

本県には、本種の採餌に適した干潟や湿地等の環境が少なく、田植え前後の水田や湿田等でみられる。しかし乾田化による湿田の減少や温暖化に伴う 5 月半ば適期田植えの推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が著しく減少し、生息環境は悪化している。

参考文献　福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○	○					○